

本文目次

序文

例言

凡例

第 I 章 調査に至る経緯と経過	1
1) 調査に至る経緯	1
2) 調査の経過	1
3) 報告書作成の経過と成果の普及活動	2
第 II 章 地形環境と周辺における既往の調査	5
第 1 節 調査地周辺の地形環境と遺跡	5
第 2 節 調査地周辺における既往の調査	8
第 III 章 調査の結果	13
第 1 節 層序	13
第 2 節 微地形と古代以前の遺物	17
1) 谷	17
2) 難波宮に先行する時期	18
i) 第 7 層出土遺物	
ii) 第 6 層出土遺物	
3) 前期難波宮期	28
i) 第 5 層出土遺物	
第 3 節 中世・近世の遺構と遺物	36
1) 中世	36
2) 近世	36
第 IV 章 遺構と遺物の検討	45
第 1 節 前期難波宮宮城南門前面の土地造成	45
1) 地山層上面の地形	45
2) 谷の改変とその時期	46
3) 谷埋め造成と前期難波宮の関係	47
第 2 節 難波宮跡NW13-5 次調査出土の動物遺存体	49

1) 概要	49
2) 種類別の特徴	49
i) 鳥類	ii) 哺乳類
3) 難波宮跡にみる古代の牛馬利用について	50
4) まとめ	52
第V章 調査のまとめ	53
引用・参考文献	55
索引	
英文目次・要旨	

報告書抄録

ふりがな	なにわきゅうしのけんきゅう だい20							
書名	難波宮址の研究 第二十							
編著者名	高橋工 小田木富慈美 丸山真史							
編集機関	公益財団法人 大阪市博物館協会 大阪文化財研究所							
所在地	〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 TEL.06-6943-6833							
発行年月日	西暦 2015年1月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なにわのみやあと 難波宮跡	おおさかしちゅうおうくうえまち 大阪市中央区上町 1丁目府営上町住宅	27128	-	34° 40' 50"	135° 31' 24"	20130624 ~ 20130927	653㎡	集合住宅の 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
難波宮跡	都城跡	古墳時代		谷		土師器・須恵器・韓式系土器		
		飛鳥時代		谷		土師器・須恵器・木簡・動物遺存体		
大坂城跡	城館跡	豊臣期		井戸・土塋		土師器・国産陶器・輸入磁器		
		徳川期		土塋・土塋		土師器・国産陶器・国産磁器		
要約	<p>今回の発掘は前期難波宮の東南隅部、朝集殿院の東で行われた。難波宮は上町台地の先端付近にあり、多くの開析谷が宮の周辺に存在することがわかっている。深い谷は宮殿建設の障害になつたはずで、宮殿周辺の谷では、埋立て工事が行われた。今回の調査でも谷が発見され、谷を埋め立てた土の中からは難波宮以前から難波宮を造営した時期までの遺物が大量に出土した。その中でも注目される遺物として、「斯々古」と記された荷札木簡があり、共伴遺物から7世紀中頃のものともみられるので、国内最古級のものである。豊臣期から徳川期には武家屋敷地となり、当該時期の井戸や土塋などの遺構が発見された。</p>							

第I章 調査に至る経緯と経過

1) 調査に至る経緯

今回の調査地は、中央区東部の上町1丁目に所在する。府営上町住宅は上町筋の東約400m、中央大通の南約450mに位置する。周辺は、史跡難波宮跡をはじめとした公園や学校、教会などが点在する閑静な住宅街である。当該地は1979(昭和54)年の町名変更以前は東区寺山町であり、府営住宅は1949~1951(昭和24~26)年に寺山住宅として建設された。町名変更後も寺山住宅として親しまれてきたが、建替えに伴って上町住宅と改称された。寺山住宅では敷地内の地層・遺物の埋没状況を把握するため、2004(平成16)年にNW04-2次試掘調査が行われ、上町住宅1号館ではその建設に先立って2008(平成20)年にNW07-4次調査が行われていた。

大阪府住宅まちづくり部によって、1号館の北隣に住棟(第2期)と集会所の建設が計画された。大阪市教育委員会文化財保護担当は上記既往の調査結果に鑑み、本格的な発掘調査を行うことが必要と判断し、本調査が行われることとなった。後述するように、本調査地は前期難波宮の宮内、豊臣後期の大坂城三ノ丸推定地内、徳川期「御城代屋敷」などの武家屋敷地などに該当する可能性があるため、古代から近世の遺構面の調査と、各時代の遺構・遺物の分布を明らかにし、古代都城や近世城郭を研究する上での基礎的資料を獲得することを目的に発掘調査を行うこととした。

2) 調査の経過

発掘調査は平成25年6月24日より開始した。同日は、調査区の位置出しを行い、東西55m、南北11mのトレンチを設定した。当初は調査面積589㎡を予定していたが、事前の打合わせにより住棟と集会所部分を一連のト

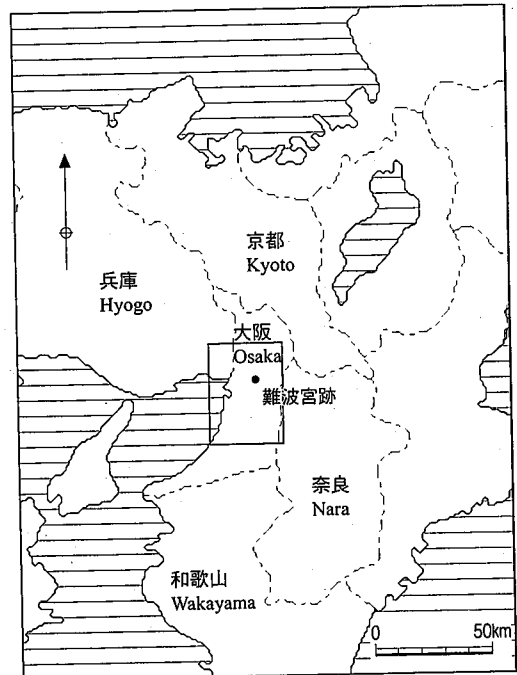


図1 難波宮跡の位置

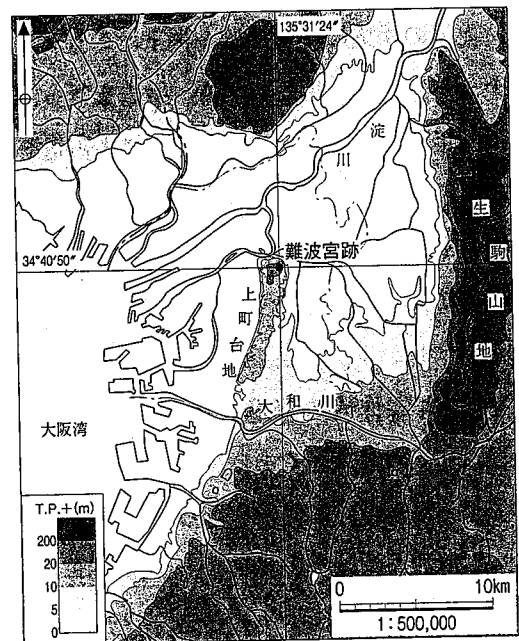


図2 難波宮跡と大阪の地形

レンチで発掘することとし、面積605㎡で調査を開始した(図3、表1)。

機材等の搬入に引き続き、同月27日より重機を用いた掘削を開始し、現代の盛土と近代の盛土である第1層を掘削して、近世の整地層である第2層の上面を迫及した。しかし、同層上面が遺存していたのは東端17mの範囲だけで、以西の北壁際約1mを除く部分は旧住棟の基礎によって第2層上面より約1m下まで破壊され、地山層(第8層)と谷の埋土(第5・6層)が露出していた。調査区の東端11m部分は、同様に地山層が露出し遺構も認められなかったため、即時に埋め戻し、この範囲を残土置き場として利用した。旧住棟部分では基礎構造を支持するために打ち込まれた松杭が林立するかたちとなり、重機掘削とその後の人力による掘下げの障害となった。このため重機掘削は同年7月9日までの期間を要した。

以後の掘下げはすべて人力により、慎重に地層の掘下げ・遺構の検出・遺構の掘下げ・遺物の捕集を行った。途中、適宜に平面・断面図などの実測図作成、地層や遺構の写真撮影を行い、記録保存に努めた。上述の理由で、東部にのみ中世・近世の地層が残っていたため、この部分の調査を先行することとした。同年8月7日までに谷の埋土である古代の遺物包含層上面に達し、以後は東部・西部ともに谷内の埋土を掘り下げる作業となった。

谷内の掘下げに際しては、壁面の崩落を防止するべく十分な傾斜を維持するとともに、遺物の捕集のために慎重に作業を行った。現地表下約4.6mに達しても谷底は検出されなかったが、作業面積は狭小となり、これ以下を安全に作業を行うことは不可能と判断し、掘下げを終了した。同年9月6日には掘下げ終了後の谷全景、断面写真の撮影を行った。

調査区は前期難波宮朝堂院東回廊の棟通りライン上に位置し、朝集殿院の東に当たるため調査区西端より7.5m東を同ラインが通過している(図4)。このライン上で朝集殿院東外郭の区画施設が検出される可能性があったため、旧住棟の攪乱が及んでいない該当箇所、調査区北西部を南北4m東西12mの範囲で拡張した(図3)。同年8月27日からこの作業を行って、遺構の有無を確認した。

上述の松杭については、掘下げの進行とともにいよいよ作業の障害となったため、同年8月26日にチェーンソーを用いて切断・撤去を行った。

同年9月9日には、測量業者による遺跡平面図作成のための空中写真撮影作業を行った。

同年9月12日には、必要な記録作成作業を終了し、埋戻し作業を開始した。同月27日には埋戻しを含むすべての作業を終了し、大阪府住宅まちづくり部による復旧状況などの立会を得て発掘調査を終了した。

3) 報告書作成の経過と成果の普及活動

調査での成果品である出土物・図面・写真はすべて大阪文化財研究所難波宮調査事務所に搬入して整理～報告書作成作業を行った。出土した遺物はコンテナは67箱分で、調査終了後に洗浄・注記作業の基礎的な遺物整理に着手し、2013年度内にこれを行った。本格的な遺物整理・資料整理は2014年6月から開始し、遺物の接合・復元を行い、必要なものについて原寸大の実測図・拓本を作成した。同年7月14日にはプロカメラマンに委託して遺物写真を撮影した。

発掘現場で作成した実測図・写真については体系的に整理・収納し、報告書作成作業に備えた。同年7月よりパーソナルコンピューターを用いた製図作業、写真図版作成作業を開始した。並行して、関係する遺跡や遺物の類例調査を行い、調査報告書の執筆作業を進めた。同年12月には図書編集ソフトを用いて編集作業を開始し、完成後の2015年1月13日に入稿して外部委託による印刷・製本作業に入った。同年1月29日に報告書が完成し、検収および関係諸機関への発送を行って全作業を終了した。

出土遺物には木簡1点、墨書土器1点、計2点の文字資料が含まれていた。これらは前期難波宮期に属する可能性が高く、国内最古級と判断されたため、2014年3月14日に、独立行政法人国立奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室に搬入し、赤外線照射による観察・釈読の協力を仰ぎ、同写真データの提供を得た。同年4月22日には、当文化財研究所難波宮調査事務所において、大学・関係機関の研究者らによる釈読会を催し、釈文を確定した。この際に協力を得た研究者は例言に述べた通りである。

木簡は国内最古級のもので、古代史上に重要な位置を占めると判断されたため、本研究所発行の大阪市文化財情報「葦火」171号誌上にて成果を公開し、市民への普及に努めた。また、報道各社にも情報を提供し、新聞紙上、テレビ放送において発表された。木簡・墨書土器を含む土器などの出土品は2014年9月3日から同年11月4日までの会期で、大阪歴史博物館特集展示「新発見! なにわの考古学2014」において展示・公開した。2015年1月24日から同年3月22日の会期で、大阪府立近つ飛鳥博物館の平成26年度冬季特別展「歴史発掘 おおさか2014」においても今回出土品が展示される。また、発掘調査成果の一端については、同年9月12日に大阪歴史博物館金曜歴史講座において「難波宮発掘調査の最前線」と題して講演を行い、市民118人の参加を得た。

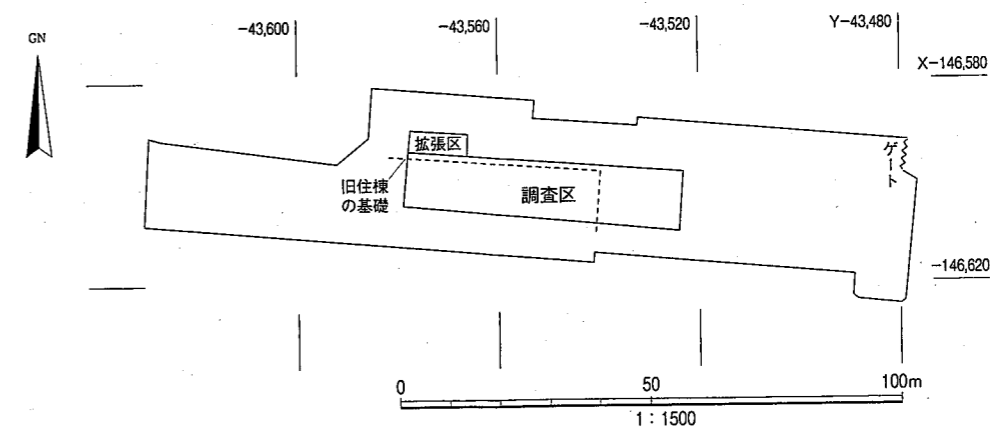


図3 調査区の配置

表1 発掘調査の概要

所在地	調査回数	面積(㎡)	調査期間	調査機関	担当者
大阪市中央区上町1丁目 府営上町住宅	NW13-5	653	2013年6月24日～ 2013年9月27日	公益財団法人大阪市博物館協会 大阪文化財研究所	高橋 工

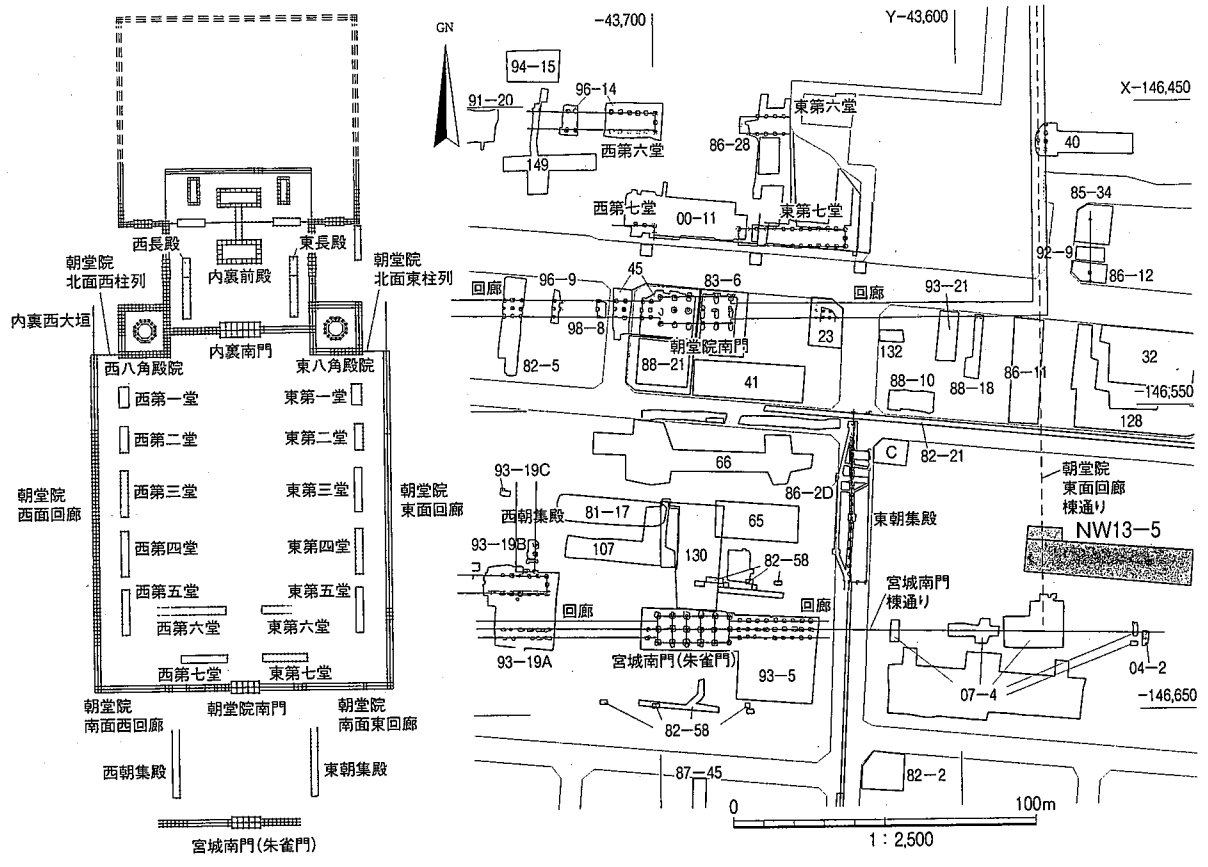


図4 前期難波宮と調査区